

*innovative spirit*で 「ものづくり」「暮らし」「みらい」に貢献する

革新の精神を礎に、新たな価値の創造へ

F U J Iは1959年の創業以来、工作機械・電子部品実装ロボットといった「ものづくり」の領域で、ロボティクスと自動化技術を磨き続け、世界中の生産現場の効率化と品質向上に貢献してきました。なかでも高精度・高速性・完全自動化対応といった技術力を武器に、電子部品実装分野ではグローバルにおけるハイエンドブランドとしての地位を確立しています。

スマートフォン、半導体、車載関連といった高度な技術水準を要する分野では当社の強みが一層評価されており、今後も投資意欲が堅調に推移していくとみています。さらに、労働人口の減少を背景とした自動化・知能化のニーズが急激に高まるなか、当社はフルオートメーション化をリードする最先端の電子部品実装ロボットNXTRを軸に、これまでの「ものづくり」に変革をもたらし続けています。

そしてその技術は、「暮らし」や「みらい」といったより広い領域へも応用され、介護・物流・リサイクル分野などにおいても、当社ならではのソリューションを提供しています。例えば、介護ロボットHugやスマートロッカーシステムQuist、廃棄物選別ロボットR-PLUSは、少子高齢化やラストワンマイル問題といった社会課題に対し、F U J Iが長年培ってきたロボット技術を活用して生まれた象徴的な事例です。これらを支えているのは、現場の声に真摯に耳を傾けながら、イノベーションを形にしていく組織風土です。

F U J Iが掲げる「innovative spirit」は、単なるスローガンではありません。変化の兆しにいち早く気づき、自ら行動を起こす姿勢そのものを表しており、それは既存事業と異分野との融合によるシナジーや新規事業の創出へとつながっていきます。私たちは今後も、未来の可能性を切り拓く企業として、進化を続けてまいります。

代表取締役社長

五十棲 丈二



電子部品実装ロボット NXTR



介護ロボット Hug



スマートロッカーシステム Quist



廃棄物選別ロボット R-PLUS

中期経営計画1年目の振り返りと市場動向

当社が2024年に策定した「中期経営計画2026」では、3つの基本方針として「既存事業の拡大と収益力強化」「次世代ビジネスの創出と事業化」「ESGに基づく事業基盤の向上」を掲げています。これらは、長期目標「FUJI2035」からバックキャストして定めたものであり、計画達成には既存事業の持続的な成長が不可欠です。

2024年度は、コロナ禍に伴う駆け込み需要の反動や、世界的なエレクトロニクス市場の低迷により厳しい市況でのスタートとなりました。特に欧州では自動車関連市場の急減速が顕著で、米中対立を背景とした地政学的リスクも先行き不透明感を強める要因となりました。一方で、年度後半にかけては、米国の政権交代をきっかけとした設備投資の再開や、中国国内市場の回復、ベトナムをはじめとした東南アジア市場や、継続的に拡大してきたインド市場の伸長など、回復に向けた動きが各地で見られました。

業種別では、スマートフォン分野において、中国ローカルメーカーの成長が顕著で、グローバルメーカーも回復基調に転じたことで設備投資が伸長しました。車載分野においては欧州の需要が減速したものの、中国や東南アジアの需要がこれを補い、全体として堅調に推移しました。

このような環境下において、中期経営計画1年目となる2024年度の業績は、売上高は当初計画にわずかに届かなかったものの、利益面では目標を達成しました。これは、ロボットソリューション事業において、2024年度前半の需要低調期に新機種への移行準備を進めたことにより、年度後半の市況回復局面で現行機、新機種ともに迅速に製品供給できる体制を整えることができた結果です。生産面では、岡崎工場の新棟稼働により現行機種NXT IIIの月産1,000台体制に加え、新機種NXTRの月産500台体制を確立しています。製品面では、NXTRがスマートフォンや半導体パッケージ（SiP）のような難易度の高い分野でお客様から設備導入の認証を取得しました。NXTRが、より高い生産性を実現したNXT IIIの後継モデルとして広く認定され、また完全自動化への対応力も備えた主力機種として、今後の拡販がおおいに期待されます。

一方、グループ会社であるファスフォードテクノロジーの半導体製造装置（ダイボンダ）については、メモリ市場の回復が想定していたよりも鈍く、当初の計画を下回りました。

また、マシンツール事業については、得意とするターンキービジネスへの集中を図った結果、5年ぶりの黒字化を達成しました。組織体制の刷新をはじめとした構造改革、生産効率や提案営業力の向上に取り組み、ターンキービジネスにおける優位性の確立に加えて、新規顧客の開拓に努め、市場環境に応じて戦略的な選択と集中を的確に行った結果といえます。

事業別(百万円)		2024年度	
		中計策定時計画	実績
ロボットソリューション	売上高	120,500	114,157
	営業利益	17,000	16,349
マシンツール	売上高	10,500	11,093
	営業利益	100	740
その他	売上高	2,000	2,136
	営業利益	0	-109
合計	売上高	133,000	127,387
	営業利益	13,500	13,781

※セグメント営業利益については全社費用を掲載していないため合計金額と一致しておりません



ファスフォードテクノロジー



2025年度の重点課題と取り組み

2025年度は、NXT IIIからさらに進化を遂げた新機種NXTRへの本格的な移行を推進する重要な年となります。まず、生産体制については、2024年度に構築した月産500台体制から、倍増となる月産1,000台体制へと拡充し、市場への安定供給を可能とする体制を構築します。営業戦略においては、NXTRが持つ高速・高精度・フルオートメーションといった性能面での優位性を最大限に活かし、幅広い業種における市場シェアの拡大を図ります。また、より高度な実装精度が求められる半導体分野においても、さらなるNXTRの浸透に注力します。

技術面では、自動化・省人化ニーズに対応した「オンリーワン製品」の創出に取り組み、顧客課題の解決と同時に、製品群全体の収益性向上を目指します。並行して、ダイボンダ事業についてはメモリ市場の再拡大を見据えた新機種開発を進め、次の成長機会を確実に捉える準備を進めています。

また、グローバルサプライチェーン全体の強靱化と、需給変動への対応力の強化も喫緊の課題です。特に、急激な需要回復に直面した際には営業・調達・生産・在庫といった各機能を一体で連携させ、納期対応力を高めることが、競争優位性を左右します。当社では、これら一連の体制強化を通じて、お客様からの信頼獲得と企業価値の持続的向上を実現してまいります。



NXTR Aモデル



岡崎新工場棟のNXTR生産ライン

ESG経営の深化と未来を見据えた組織づくり

「ESGに基づく事業基盤の向上」については、環境・社会・ガバナンスのそれぞれの観点から、組織体制の整備と情報開示の強化を進めています。

環境面では、カーボンニュートラルの課題に対し、従来自社内の事業活動を対象に行ってきたCO₂排出量の算定を、Scope 3にまで拡張し、サプライチェーン全体を視野に入れた実態把握を進めています。その実現のため、サプライヤーやパートナー企業と課題や知見の共有を行いながら、一次データの収集を進めています。

社会面では、社員一人ひとりの能力を最大限に引き出すための人事制度の刷新や教育の充実に加え、流動性のあるキャリア制度を整え、マルチスキル化の推進と多様な働き方を実現する就労基盤の整備に注力しています。すでに社内複業や社内FA制度、マルチスキル育成プログラムなどを通じて社員の経験の多様性と視野の広がりを促す機会を提供しています。グローバル人材の育成を重視し、特に若手エンジニアに対しては異文化経験を積むことで、自己の成長と発想力の向上を促進しています。また、採用活動における情報発信力の強化を通じて、戦略的に不足分野の人材獲得にも取り組んでまいります。

ガバナンス面では、社外取締役・監査役には多様なバックグラウンドを持つ人材を起用し、法務・会計・アカデミアの知見を活かした議論が活発に行われており、当社が未経験の領域へ挑戦する際にも、健全な監督機能と補完的な視点を取り入れることができます。

また情報セキュリティを統括する委員会の新設や、人権方針・倫理方針の制定を通じて、より強固なコンプライアンス体制の構築を図っています。

これらの取り組みを通じて、変化の激しい社会環境においても、持続可能で信頼される企業であり続けるための基盤強化に努めてまいります。

変化を先取りし、挑戦を続ける企業へ — 長期目標に向けた展望と決意

当社は、2035年度に売上高3,000億円という長期目標を掲げています。この実現には、既存事業におけるオーガニックな成長を礎としながら、新規事業創出による近接領域への進出や、スピード感のあるM&Aの実行といった、多角的な事業拡大が欠かせません。「ものづくり」「くらし」「みらい」という3つのカテゴリーに分類されるマテリアリティを起点に、社会や市場から選ばれ、信頼される企業であり続けるために、社員一人ひとりが広い視野と高い志を持ち、変化を先読みして前例にとらわれず迅速に行動できる組織であることが何より重要です。

F U J I では、社員が課題に気づき、自ら仮説を立て、スピーディーにトライアルを行う風土を大切にしています。たとえ失敗しても、そこから学び、再挑戦する姿勢を尊重し、「小さな失敗を早く経験し、次に活かす」文化を組織全体で共有しています。このような挑戦を繰り返すことで、社員の視野は広がり、技術的な知見にとどまらず、社会的な視座を持った行動へとつながっていきます。

「innovative spirit」とは、まさにこのような、自らの意思で挑戦し続ける力であり、イノベーションの起点となる精神です。価値創出は特定の部門だけで生まれるものではなく、社員一人ひとりの気づきと挑戦によって生まれます。実際に、現在の新規事業の多くは、現場からの声や日々の業務のなかでの課題意識を出発点としています。QuistやHugは、お客様の困りごとに寄り添い、改善するなかで磨き上げられ、今ではF U J I を代表する次世代B to Cソリューションとして発展しつつあります。新規事業創出に向けた組織体制としては、最先端技術の応用と深耕を担う「開発センター」と販路探索や事業構想など非技術分野での創出を担う「イノベーション推進部」が両輪となり、既存事業の近接領域への展開や第三の柱となる事業の確立に向けて準備が進められています。

F U J I の強さは、革新的な発想を実現できる組織文化と、それを支える制度、柔軟性、そしてスピード感にあります。これらを今後も磨き上げ、「innovative spirit」を体現する企業として、社会に新たな価値を提供し続けてまいります。

売上高目標（連結）

